

東京2020オリパラ聖火リレー トーチ巡回展示を行いました！

4月23日(金)、東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレートーチが、ときがわ町体育センター（せせらぎホール）にやってきました。近隣の小学生や保育園の子どもたちも見学を訪れ、桜ゴールドと呼ばれるオリンピック聖火リレートーチと、桜ピンクと呼ばれるパラリンピック聖火リレートーチが並ぶ様子を先生の話の聞きながら興味深そうに見ていました。会場に置かれたトーチと同じ重さ（1.2kg）の棒を持ち上げた方からは「思っていたよりもずっと重たい」といった声が上がっていました。埼玉県では、7月6日から7月8日の3日間にわたりオリンピック聖火リレーが、8月19日にはパラリンピック聖火リレーが行われる予定となっています。
※上記の日程は変更・中止となる場合がありますのでご了承ください。



東京2020オリンピック・パラリンピックのトーチを見学する子どもたち。



写真説明

今こそ「つながり」を大切に 愛育班「よせがきプロジェクト」

新型コロナウイルス感染症の影響で、人とのつながりを感じる機会が減りました。そこで、愛育班では、コロナ禍で子育てしているお母さんたちを対象に、「みんなでつながろう！よせがきプロジェクト」を実施しました。お母さんたちからたくさんのメッセージをいただきました。このメッセージは、生き生き活動センターに展示してありますので、ぜひご覧ください。



生き生き活動センターに展示された手書きのメッセージ。子どもたちの成長に思わずほっこり。



写真説明

生活安全サポーター委嘱式

4月30日(金)、小川正夫さん、八木原初治さん、大野康行さん、大附一さんが、生活安全サポーターの委嘱を受けました。生活安全サポーターは、2チームに分かれ、青色回転灯を装着した車で通学路の見守りや訪問販売などの注意喚起及び町内のパトロールを行います。よろしくお願いします。



写真左から、八木原さん、小川さん、渡邊町長、大野さん、大附さん。



写真説明

これもいざというときの備え 個人で防災用の井戸を設置

「自宅の井戸を復活させたので見に来ないか」との連絡をいただき、現地に赴きました。出迎えてくれた松本宣正さん（玉川地内）は、2020年6月頃に敷地内の井戸を復活させたことを教えてくれました。井戸自体は昔からあったもので、家を建てる際に杵だけ残して埋めていましたが、「いつかは復活させようと思っていた」こともあり、防災や有事の際に活用しようと、昔の杵をそのまま用いて、オーダーメイドで完成させました。この井戸は、電気も呼び水も必要なく水を汲みだせるもので、松本さんは、「飲み水としては検査しないと使えませんが、今の時代は何が起こるかわからないので、一番大事な水をここで使えるようにすることで、地域のためにもなれば良いと考えています」と話してくれました。



昔の型杵を利用して作られた頑丈な井戸です。



写真説明